

研究論文

高年次学生合宿研修（正課外授業）による キャリア形成支援教育の効果と可能性についての実践的研究

大石美佳¹⁾ 松尾敬志²⁾ 野間隆文³⁾ 歯学部学生委員会

1) 徳島大学病院総合歯科診療部

2) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部歯科保存学分野

3) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部分子医化学分野

要約：平成18年度と19年度に、歯学部4年生に対して1泊2日の合宿研修を正課外授業として実施した。本事業は、コミュニケーション能力の開発を通じてより良き医療人を育成することが目的である。合宿研修場所は徳島県内の海洋センターであった。リラックスした雰囲気の中で海洋プログラムからスタートし、次いで、コミュニケーションに対する導入的なゲームや講演、そしてワークショップにより自分たち自身で問題点を抽出し、さらに解決するための討論を行い、その結果をプレゼンテーションをするという内容であった。平成19年度の2回目には、医学部と薬学部の協力を得て、実施テーマとして「コミュニケーション能力の育成」に「医療専門職としてのキャリア形成支援」という新たなテーマを加え、チーム医療の定義や実践を学ぶ機会を設けて実施した。従来の正課授業と異なった教育方法の可能性について成果を基に検証し、今後のキャリア形成支援教育への応用の可能性について考察した。

(キーワード：大学教育、合宿研修、コミュニケーション能力、キャリア形成支援)

Practical study on the effects and possibility of university education
supporting career formation by camp training of senior students

Mika Oishi1), Takashi Matsuo2), Takafumi Noma3)
Committee of Student Affairs, Faculty of Dentistry

1) Department of Oral Care and Clinical Education, Tokushima University hospital

2) Department of Conservative Dentistry, IHBS, The University of Tokushima

3) Department of Molecular Biology, IHBS, The University of Tokushima

Abstract : Two days training camp for the fourth year students of dental school was executed in 2006 and 2007. The purpose of this program is to develop good practical dental doctors through the promotion of communication skills. The training camp was held at the YMCA oceanic center in Anan city of Tokushima Prefecture. It began with an oceanic program under relaxed atmosphere, and then, the programs containing games, lectures, and workshops related to communication skills were carried out. The theme "support for career formation as a medical profession" was added to "promotion of communication skills" in 2007, and then the skills to learn the definition and the practice of the medical team treatment were installed and executed.

The usefulness of methodology different from the regular course class was verified based on the results, and the possibility of the application in the future curriculum for the career formation was discussed in the paper.

(key word: university education, training camp, communication skills, career formation)

1. はじめに

平成17年3月に発行された第22回徳島大学学生生活実態調査報告書(キャンパスライフ)において、歯学部4年次以降の高年次学生には、歯学部3年次以前の学生や他学部の学生と比較して「やる気が起こらない」「目的がない」「何となく不安」などの割合が4、5、6年生と学年があがるとともに増大していく傾向が見られた。歯学部の4年生は、専門教育課程のうち、

基礎歯科医学講義をほぼ修了し、歯科臨床の講義と実習が始まる学年である。この時期からのカリキュラムでは、歯科医師養成という専門医職業学校としての内容が濃くなり、日々の講義、実習に出席してこそ、専門職としての全体像を理解できるシステムとなっている。したがって、4年次以降は、大学生として自主性を尊重するという学問の学び方ではなく、決められた学習計画に従って毎日のスケジュールが進んでいく学習

過程であるため、ややもすればやる気と目的意識が無意識のうちに失われ、低下している状況であるように考えられた。

一方、近年医療従事者は患者の心理に配慮し、共感できる態度を持つ事が求められるようになった。歯学部5年次になると本格的に臨床実習が開始され、直接患者と接し、その治療において見学、介助などの立場で医療行為に関わる重要な時期を迎える。徳島大学歯学部学生委員会は平成18年度学生委員会活動計画の一つとして、社会的に倫理観の低下によるモラルハザードが叫ばれる中、医療人として確固として倫理観を堅持した歯科医師、医療従事者を育成することを目標に、先の学生生活実態調査結果に見られた中だるみ傾向の4年生を対象に、学生が自分自身の多様な能力を自覚し、その能力を発揮する「場」を提供する事で、その学生の可能性を引き出す事を支援する教育や、将来の夢を大きく育てる支援教育を行うことを検討した。その議論の結果、従来の教育課程の枠組みを越えて、つまり日常性から脱出して学生自身によってその能力を再認識すること、自らの手で目標に到達する体験をすること、またその「場」をもうけること、さらに、一個人ではなく、グループでも達成感を共有できるような意図で1泊2日の合宿研修を正課外授業として企画した。学生たちに「夢」を与えよう。日常とは、かけ離れた「夢」のような?時間を過ごそう。ということで、この企画を「夢企画」と名付けた。具体的には、この合宿研修を、徳島県内の海洋センターで行い、リラックスしたブレインストーミング的な位置づけの海洋プログラムからスタートし、次いで、コミュニケーションに対する導入的なゲームや教育講演、そしてワークショップにより自分たち自身で問題点を抽出し、さらに解決するための討論を行い、その結果をプレゼンテーションをするという内容とした。2回目の平成19年には、平成18年度の実施テーマである「コミュニケーション能力の育成」に加えて、歯学部だけでなく、薬学部と医学部(栄養学科)の学生と教員にも参加していただき、それぞれの「医療専門職としてのキャリア形成支援」というテーマで、チーム医療の定義や実践を学ぶ機会も設けて実施した。

2. 方法と実施

1) 実施計画案の策定：平成18年7月

徳島大学歯学部学生委員会により、「夢企画」の実施の意図を学生全員に説明し、日程や実施内容について学生と話し合った。学生からは、多くの学生が参加できるであろう前期試験休みという要望があり、9月の最終の週末に実施することにした。場所としては、身体を動かすリクリエーションやワークショップなどの活動ができ、さらに宿泊施設があり、費用も適当である場所の選定を開始した。距離や収容人数により「YMCA阿南国際海洋センター」に決定した。海洋センター職員との話し合いで季節的にカヌーやカヤックなどの海洋プログラムが可能であるということを参考にして内容を決定した。この試案は平成18年9月の歯学部教授会で承認を得て、正式に歯学部正課外授業として実施することが決定された。平成19年度は、平成18年度を参考にし、4月から、学生委員を通じて医学部、薬学部にも協力依頼をしつつ、企画を策定した。なお本事業は平成19年7月の歯学部教授会で歯学部正課外授業として実施することの承認を得た。

2) 現地下見調査：平成18年8月

現地の下見調査は、学生から選出された合宿研修リーダー、副リーダーと松尾、野間両学生委員により1日をかけて実施された。「YMCA阿南国際海洋センター」の職員とセンターで行える具体的なプログラムの相談・打ち合わせを行い、さらに大学から合宿所までの必要時間、宿泊やワークショップなどを行うために施設に関する情報収集を行った。平成19年度も同様に事前の下見とYMCA阿南国際海洋センターとの打ち合わせを行った。

3) 事前の打ち合わせ内容

学生委員会において、何度かの打ち合わせを行った。その決定内容は、

①実施内容とその順番

②ワークショップなどの担当者の決定

③参加教員の決定：学生委員だけでは、指導教員としての人数に不足があるので、学生委員以外の指導者教員を決定した。実際には、学部長、前学部長、4年生の担任教員2名や若手の助教と女性教員、そして、教務係事務職員という構成であった。平成19年度は、これらに加え、医療教育開発センター、薬学部、医学部栄養学科の教員が加わった。

④学生委員と学生リーダーとの話し合いにより、学生自ら、研修中の学生企画の立案、学生のグループ分け、合宿中に必要な飲食物などの物品の購入などの準備を行なった。飲み物などは教職員へのカンパの呼びかけでも集められた。

4) 合宿研修実施日程と内容

①平成18年度

日時：平成18年9月29日(金) 30日(土)

場所：YMCA 阿南国際海洋センター

対象学生：歯学部4年生 61名

教職員 13名

計 74名

②平成19年度

日時：平成19年9月28日(金) 29日(土)

場所：YMCA 阿南国際海洋センター

対象学生：歯学部4年生 41名

薬学部学生 5名

医学部栄養学科学生 4名

教職員(薬学、栄養、開発センターを含む) 18名

計 68名

③プログラム(平成18、19年共通)

1日目

9:00 歯学部よりバスで出発

11:00 海洋センター到着

バスの駐車場から海洋センターまでは、徒歩で10分。車の乗り入れは禁止のため、ワークショップの用品、道具を教員と学生が協力して運んだ。

11:30 開所式

海洋センター職員の方による開所式。

海洋センターでの規則や施設の使用方法についての説明を受ける。



12:00 昼食

海洋センターで食事は準備してくれるが配膳や食後

の食器移動は、セルフサービスのため、参加者一同でそれらを行った。



13:00

ボランティア活動

海洋プログラムで海岸や海を使用させてもらうにあたり、海岸に放置されているゴミを参加者全員で分別収集を行った(ボランティア活動)。



海洋プログラム

(カヤック カヌー 無人島探検)

海洋プログラムを行うにあたり、海洋センターの職員の方から「ライフジャケット」の装着方法や救命救急の重要性についての説明を受ける。ライフジャケットを装着して、学生、教員が交じりカヌーは3名ずつ、カヤックは8名ずつのグループになり、自分の舟を運び出す。





16:30 入浴

海洋プログラム終了後、そのまま入浴へ

18:00 夕食

19:00

ワークショップ I (平成18、19年度共通)

④コミュニケーション演習(ゲーム)

コミュニケーションの導入に使用されるゲームを3題実施した。このゲームは「アイスブレイキング」と「コミュニケーションに対する気付き」を目的とする。



⑥講演(平成19年度のみ)

i 保育所実習を通してわかった

コミュニケーション能力の必要性

(医学部教員)



医学部2年生に実施している保育所実習の実施状況、コミュニケーション力を身に付けるための一つの方法とコミュニケーション能力の重要性を講演して頂いた。

ii 海の楽しさ-海洋資源と薬学

(薬学教員)



海の美しさや可能性とともに、海洋資源を利用してアコヤガイの寄生虫であるゴカイの一種を駆除するための研究を中心に講演して頂いた。

iii チーム医療の実際-NST 現場から

(栄養学科教員)



徳島大学病院内で実際に行われている栄養指導とその中でチーム医療を講演して頂いた。

21:00 学生が企画した花火

22:00 懇親会

その後、就寝

2日目

6:30 起床

7:15 朝の集い

海洋センター職員の指導によるセンターの
歌の合唱とラジオ体操

8:00 朝食

9:00 ワークショップ II

以下の5つのテーマから各班が1つ選びスモールグループディスカッションを行う。「KJ法」により問題点抽出を行い、プロダクトを模造紙に記載し、各班の代表者が、プレゼンテーションをし、皆で討論した。

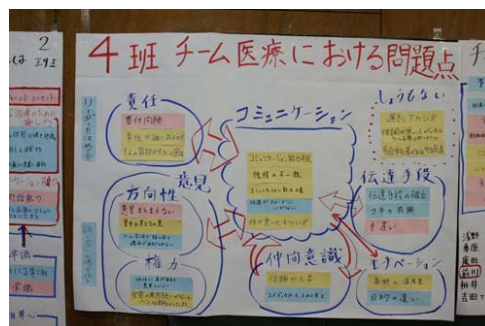


(平成18年度)

テーマ①臨床実習で何を学ぶか

- ②良い歯科医師とは
- ③儲かる歯科医とは
- ④大学におけるクラスとは
- ⑤歯科医師にとっての学位とは

プロダクト



(平成19年度)

問題点抽出 (KJ法) プレゼンテーション

テーマ①医療人として望ましい態度とは

- ②チーム医療における問題点と
その改善方法
- ③チーム医療としてのNSTの可能性
- ④QOLとは
- ⑤患者さんへの禁煙指導



11:30 修了

12:00 昼食

13:00 海洋センター出発

15:30 歯学部到着・解散

⑤アンケート

事前、事後に学生と教員にアンケートを行い、学生、教員の合宿による意識の変化や考え方についての分析を行った。

アンケート結果

①平成18年度 学生事前アンケート

1. 「コミュニケーション」とは、何か知っていますか
はい 76% いいえ 24%
2. 「コミュニケーション」について学んだことはありますか
はい 12% いいえ 88%
3. 「2」で「はい」と答えた方へ
それは、いつごろですか
中学生以前 49% 高校生 1%
大学に入学後 37% その他 13%
4. 歯科医師にとって「コミュニケーション力」は、必要だと思いますか
はい 98% いいえ 2%
5. 「コミュニケーション力」は、学習で伸びると思いますか
はい 74% いいえ 26%
6. あなたのコミュニケーション能力はどれくらいですか
大変優れている 7% 優れている 5%
ふつう 63% 劣っている 22%
大変劣っている 3%
7. 「6」で「劣っている」あるいは「大変劣っている」と答えた方へ
「コミュニケーション力」を身に付けるために努力していますか
はい 22% いいえ 78%
8. 「7」で「はい」と答えた方へ
どのような努力をしていますか
・部活動をして多くの人と交流している
・本を読む
9. 過去に他人とのコミュニケーションに関して困ったことや悩んだことがありますか
はい 45% いいえ 55%
10. 「9」で「はい」と答えた方へ
どのようなことでしたか
・自分の伝えたい事がうまく伝わらずに友達に誤解された
・言いたい事をうまく伝えられずに友達に誤解された

②平成18年度 学生事後アンケート

1. 「コミュニケーション」とは、何かわかりましたか
はい 90% いいえ 10%
2. 歯科医師にとって「コミュニケーション力」は必要だと思いますか
はい 100% いいえ 0%
3. 「コミュニケーション力」は、学習で伸びると思いますか
はい 93% いいえ 7%
4. あなたのコミュニケーション能力はどれくらいですか
大変優れている 8% 優れている 17%
ふつう 54% 劣っている 18%
大変劣っている 3%
5. 今回の「夢企画」は、コミュニケーション力を養うのにプラスになったと思いますか
はい 90% いいえ 10%
6. 「5」で「はい」と答えた方へ
どのような点がプラスになりましたか
多数意見を抜粋
ワークショップ関係
・ワークショップのディスカッション
・プレゼンテーション
・班で協力して何かを成し遂げようとする機会が持てた
コミュニケーション関係
・いろいろな物の考え方があり、受け取り方があ
ることが解った
・他人に伝えることの難しさを感じた
・コミュニケーションに関して考える機会が持
てた
その他
・親睦が深まった
・いろいろな人の意見を知ることができた
7. 「5」で「いいえ」と答えた方へ
その理由をお教え下さい
・企画で養える物ではない
・実践的でない
8. 今回の「夢企画」で、印象に残った事は何ですか
海洋プログラム



- ・カヌー
 - ・皆で走った海
- ワークショップ

- ・みんなのプレゼン能力の高さ
- ・伝言ゲーム
- ・みんなで話し合えた

リクリエーション

- ・懇親会
- ・花火

9. 今回の「夢企画」のような企画があれば、また参加したいですか

はい 74% いいえ 26%

10. その他、どのような事でも御意見をお書き下さい

- ・思っていた以上にすごく楽しめた
- ・勉強になった
- ・参加してよかった
- ・貴重な時間をありがとうございました

③平成19年度 学生事前アンケート

1. 「コミュニケーション」とは、何か知っていますか
はい 81% いいえ 19%
2. 「コミュニケーション」について学んだことはありますか
はい 26% いいえ 74%
3. 「2」で「はい」と答えた方へ
それは、いつごろですか
中学生以前 33% 高校生 17%
大学に入学後 42% その他 8%
4. 歯科医師にとって「コミュニケーション力」は、必要だと思いますか
はい 100% いいえ 0%
5. 「コミュニケーション力」は、学習で伸びると思いますか
はい 67% いいえ 33%
6. あなたのコミュニケーション能力はどれくらいですか
大変優れている 2% 優れている 16%
ふつう 65% 劣っている 12%
大変劣っている 5%

④平成19年度 学生事後アンケート

1. 「コミュニケーション」とは、何かわかりましたか
はい 95% いいえ 5%
2. 歯科医師にとって「コミュニケーション力」は、必要だと思いますか
はい 100% いいえ 0%
3. 「コミュニケーション力」は、学習で伸びると思いますか
はい 91% いいえ 9%
4. あなたのコミュニケーション能力はどれくらいですか
大変優れている 5% 優れている 14%
ふつう 62% 劣っている 14%
大変劣っている 5%
5. 今回の「夢企画」は、コミュニケーション力を養うのにプラスになったと思いますか
はい 98% いいえ 2%
6. 「5」で「はい」と答えた方へ
どのような点がプラスになりましたか
・コミュニケーション力が重要なことは解っていたがなぜか、どのようにすれば伝わりやすいかなどを改めて考える機会になったから

7. 「6」で「劣っている」あるいは「大変劣っている」と答えた方へ

「コミュニケーション力」を身に付けるために努力していますか

はい 18% いいえ 82%

8. 「7」で「はい」と答えた方へ

どのような努力をしていますか

- ・毎日誰かとしゃべる
- ・なるべく人に話しかける

9. 過去に他人とのコミュニケーションに関して困ったことや悩んだことがありますか

はい 33% いいえ 67%

10. 「9」で「はい」と答えた方へ

どのようなことでしたか

- ・思った事をすぐに口に出すので行っている事と思っていることが食い違う
- ・話題を提供できないこと
- ・一緒にいても無言になってしまう事があったこと
- ・人と話す不安になる
- ・価値観の違い
- ・状況を人に伝えるのに概観から詳細点へ伝える大切さを改めて感じた
- ・人によって同じ説明でも受け取り方が違うことが解った
- ・プレゼンテーション
- ・いろいろな学部の人と触れ合えた
- ・チーム医療について学べた
- ・カヌーで絆が深まった
- ・皆で討論したこと

- ・たくさんの人の考えや意見がきけた

7. 「5」で「いいえ」と答えた方へ

その理由を教えてください

- ・風邪ひいた

8. 今回の「夢企画」で印象に残った事は何か

- ・カヌー
- ・お絵書きと伝言ゲーム 人によって解釈の仕方が違うことがすごく解った
- ・KJ法を使ったワークショップ、ディスカッション
- ・懇親会

9. 今回の「夢企画」のような企画があれば、また参加したいですか

はい 77% いいえ 23%

10. その他、どのような事でもご意見をお書き下さい

- ・時間の余裕があるようなタイムスケジュールが組まれていたのでゆったりできました
- ・とても楽しかったです
- ・またやりたいです



⑤平成19年度 教職員事前アンケート

1. 「コミュニケーション」について学んだことはありますか
はい 50% いいえ 50%
2. 「1」で「はい」と答えた方へ
それは、いつごろですか
中学生以前 0% 高校生 0%
大学に入学後11% その他 11%
3. 「コミュニケーション力」は、学習で伸びると思いますか
はい 94% 回答なし 6%
4. 「3」で、「はい」と答えた方へ
どのような学習方法で、伸びると思いますか
・実習と講習
・ロールプレイ、様々なシチュエーションを設定して対応力を高める
・ホスピタルマインド+スキルによって向上を図る
・小グループでの学習(チュートリアル)
・人と人が素直に触れ合う機会を多く持つという体験が結果として学習となる
・意識し努力する事で伸びると思う
・方法を指導する
・まず意識改革
・実践
5. 「3」で、「いいえ」と答えた方へ
コミュニケーション力を伸ばすにはどうしたら良いと思いますか
該当する回答なし

⑥平成19年度 教職員事後アンケート

1. 「コミュニケーション力」は、学習で伸びると思いますか
はい 100% いいえ 0%
2. 今回の「夢企画」は、学生のコミュニケーション力を養うのにプラスになったと思いますか
はい 93% いいえ 7%
3. 「2」で「はい」と答えた方へ
どのような点がプラスになりましたか
・KJ法の中で議論することで日常とことなる知的生産性を意識したコミュニケーションの経験をした
・課題を与えられることによって「伝えなければ」という意識が出ると同時に「伝える」と「伝える」の違いが実践できたのではないかと思う。
・1日目のワークショップのコミュニケーションの具体例の体験や2日目のグループワークでの課題発表(プレゼン)も含めた「伝える」という工夫
・ワークショップで学習することにより様々なコミュニケーションが取れる
・コミュニケーションそのものを理解できたであろう事
・「全体から詳細へ」の説明が解りやすかった
・通常あまり話さない人と話をする事ができた
・視点が広がった
4. 「2」で「いいえ」と答えた方へ
その理由をお教え下さい
・既に一定水準以上の学生にとっては、自信になったり、一層の向上につながると思えるが、気づきのない学生には気づきのないままで終わったような気がする。
5. 今回の「夢企画」で、教職員として、印象に残った事は何ですか
・改めてテクニック(演技)としてのコミュニケーション能力獲得の困難さ、自分の未熟さ
・歯学部生にとっての「チーム医療」のイメージが非常に乏しかった。教育の必要性を感じた
・クラスのサイズ=定員の差で運営方法や質が変わるだろう。歯学部にもいろいろな学生がいる。多少、学年が違っても混ぜる価値はありそう

医学科3年生を10名位混ぜることも可能だろう

- ・学生さんのプレゼンテーションが、想像していたよりうまくて驚いた
- ・学生は思いのほかしっかりしている事を確認した
- ・活発な意見発表 教職員、学生への効果的な教育
- ・プレゼンテーションがとても上手だった人がいた

6. 今回の「夢企画」のような企画があれば、また参加したいですか

はい 80% いいえ 20%

7. その他、どのような事でも御意見をお書き下さい

- ・日頃の多忙な毎日からはなれての自然の中での2日間、私たちのリフレッシュの時間となりました。色々なコメントやプレゼンを聞き、視点も広がりコミュニケーションの意味を再認識しつつ参加できました
- ・他学部、他学科の学生が交流することで視点が、広がること、お互いにわかりあうための言葉の使い方、解説を工夫している様子を見て(お互い知らない言葉を説明したりして)他者を思いやる態度が自然に身に付くことを感じた
- ・夢企画への参加は、自分にとっては役に立つのですが、苦痛も大きいです。全体にスケジュールはもう少しタイトな方が良い。酒類は、むしろ夕食後の缶ビール1本を許してよいから夜の宴会は止めたほうが良い。体調を悪くした学生が何人もいた

アンケート結果の分析

学生に対する平成18年度、19年度、教職員に対する平成19年度のアンケートを通して、「夢企画」に対する評価は高かった。コミュニケーションに対する質問で、「歯科医師にとってコミュニケーション力は必要か」という質問に対して平成18年度は、事前(はい98% いいえ2%)が、事後(はい100%)に変化した。また、『「コミュニケーション力」は、学習で伸びると思いますか?』という質問に関して平成18年度は、事前(はい74% いいえ26%)事後(はい93% いいえ7%)さらに、平成19年度では、事

前(はい67% いいえ33%)事後(はい91% いいえ9%)と合宿によって考え方が変化したことがわかる。さらに、『「夢企画」は、コミュニケーション力を養うのにプラスになったと思いますか?』という質問に対して、平成18年度は、(はい90% いいえ10%)平成19年度は(はい98% いいえ2%)という回答が得られた。これらのことから、「夢企画」の目的の一つである「コミュニケーション能力をつけること」、「コミュニケーション能力の重要性に気付くことが出来た」などの効果があったと考えられる。教職員に関しての質問では、教職員自身もコミュニケーションについて考える良い機会になったようであるし、さらに学生のプレゼンテーションなどの能力の高さにも驚きを持ったようである。通常の授業では見出せない学生の多様な能力を知る良い機会となったことが窺えた。

3. 結果：教育効果の課題群に対する評価

1) チームワークの醸成

はじめに述べたように、歯学部4年生は、6年間の歯学教育の中で「中弛み」を感じる時期であるかもしれない。それゆえ、日常性に埋没し、何事に対してもやる気や充実感を感じない状態で、歯学部に入學して4年間で形成された人間関係も変化させたくないという気持ちになっている時期ではないかとも考えられた。つまりクラスの中で今まで懇意でなかった人たちと新たな関係を築く試みを努力しないとも考えられた。この時期に1泊2日、ただ単に寝食をともにするだけでなく、食事の配膳の準備やゴミ拾いなどのボランティア、そして海洋プログラムの様に、身体を動かすことによる触れ合い、さらにワークショップによる真剣討論、また懇親会での肩の力を抜いた本音の会話によるコミュニケーションや様々な角度からの相互作用を通じて、仲間の新しい側面を知る事ができ、また仲間と触れ合い、協力しあうことの喜びを実感できたことがアンケートの分析結果から窺えた。

さらに、平成19年度の合宿研修では、歯学部学生だけでなくチーム医療を学ぶ事を目的として、すでに管理栄養士の資格を持つ医学部栄養学科の大学院生とその指導教員、薬剤師の資格を持つ薬学部の大学院生、そして薬学部の学生とその指導教員に参加していただいた。最初は、各学部ごとに集まっていた学生が、プ

プログラムの進行にともなって学生の分布がまんべんなく分散する事により、初対面の緊張も消え、お互いが、現在どのような環境で、どのような目的を持ち学んでいるかなどを語り合うようになっていった。その過程で、医歯薬学生間での互いの立場に興味を持ち始め、そして少しずつ互いの立場を理解し始めたことが議論や態度の変化から窺えた。その際、栄養、薬学の指導教員が、第一日目の夜に、それぞれの専門である「NST」や「薬学での研究テーマ」についてレクチャーをして下さったことにより、異業種であるそれぞれの分野の内容がお互いに明確化され、更なる理解を深められたと考えられた。本合宿研修に参加した学生は、現在専門職としてのつながりはないが、今後、彼らが専門の業務につく際に、異業種でのチームワークについて抵抗なく自然に考えることができると考えられた。

2) 体験学習による意識改革

コミュニケーションの上達にはもちろん論理的なものの考え方や知識が必要である。しかし、座学のみではコミュニケーション技術の向上は困難である。そして、技術を身に付けるには、実際に自ら経験し、さらに自ら「気付く」事が必要となってくる。この「気付く」を得るには、自ら「体験」することが、一番の効果を示す。個人がチームの一員となることによりチームワークを体得する。また、個人が他人とコミュニケーションすることによりコミュニケーション力を体得する。コミュニケーションは、既知の人と今までと異なる環境でとることにより、新しい発見がある。また、未知の人とコミュニケーションをとることによりさらに新しい発見がある。今回の一つの目的であるコミュニケーション力をつけるということが、海洋センターにおいての合宿研修という形で行われたと言うことが、最近の大学生教育としては、新しい取り組みである。これは、やはり「体験」することにより学生に大きな「インパクト」を与え、指導する側が、1から10までをすべて与えるのではなく、学習者に体験により気付かせ、意識改革を促進できたと評価できる点と考えられた。

3) キャリアの自覚と異業種への理解と関心の高まり

合宿研修は、歯学部4年生にとって、基礎医学の講義と実習が終了し、臨床歯学の講義と実習が始まる時

期に行われた。このように、臨床について学びはじめる時期であることから、徐々に自分たちが将来就く職業に対しての具体的なイメージが形成しつつある頃である。しかし、歯学部の学生のための社会では、日々の膨大な講義、実習、試験は、ノルマとしてこなすことのみが、第一の目的となっている場合もあろう。このような状態の中でやる気が無くなり目的意識を失ってしまうのかもしれない。平成19年度に実施した合宿研修では、異業種の人やそれを目指す人、しかもいずれそれぞれが、職業についた時に同じ職場で働く可能性のある人たちと接することは、自らのキャリアをあえて自覚するきっかけにもなったであろうし、また、同世代と言うことでお互いへの理解と関心を持ったと思われる。学生が自らのキャリアをデザインし、「もっと知りたい、もっとできるようになりたい」という、自分自身の専門能力の向上をめざし、人の役にたちたいという、自分自身の使命感を持ち、知られたいという、自分自身の社会的な認知度の向上を求める、このようなキャリア意識を変化させる良い機会になったように思われる。

4) 教員FDとしての意義

合宿研修を通じて、学生は様々な角度から物を見ることができ、有形無形の収穫を得たと考えられるが、指導者として合宿に参加した教員にとっても共に多くの物事を学んだと言える。まず、参加教員は、「コミュニケーション」について系統的に学習する機会を持たなかった世代で、今日経験的にある程度の知識を有するにすぎない。そのような教員が、学生と共に同じ視点でコミュニケーションについて学び、そして考える機会が持てた。さらに、学生と共に、海洋プログラムや食事、懇親会を行うことにより、学生とのコミュニケーションをとることができたし、現在の学生の思考法、表現法、目標などを直接知ることができた。さらに、平成19年度には、薬学部の教員と学生、医学部栄養学科の教員と学生、そして医学部の教員とともに1泊2日過ごすことにより、教員自身もチーム医療について共に考え、討論することにより、チーム医療に対する理解を深めることができたといえる。これらの学生と教員の立場の両面から考えると、この合宿は、学生のための Student Development (SD) という役割だけではなく、教員に対する Faculty Development (FD) の役割

を十分に果たしたと考えられる。

4. 考察：

教育における学生支援とキャリア教育のあり方について

歯学部は、従来職業的専門性のため、あるいは卒業生の多くが、個人での歯科医院の開業という道を選ぶことが多いために就職支援を始めとする明確なキャリア支援を行っていなかった。もちろん就職の募集書類は、教務係が窓口になっているし、学生委員会が、就職進学ガイダンスを1年に2度開催している。しかし、上記特殊性から一般の4年制大学が持っているキャリア支援センターなどは存在しない。歯科医師という専門領域は、特殊な知識と技術を必要とするので、より職業専門学校的な、臨床実習教育のほとんどは教員と学生がマンツーマンに等しい状態で実施されており、教員はその指導に手間と時間をかけている。そのシステムは歯学部独自の特殊な形態で、学生と中堅の歯科医師であるインストラクターとの関係は、大学でありながら、徒弟制度的である。そのような中で、教える教員も教えられる学生も、技能者としての側面ばかりを追求し、狭い歯科領域の中での論理にまともってしまいう傾向があり、またこれをキャリア支援と解釈している指導者も少なからず存在する。近年、歯科医学教育において、歯科医療を受ける患者側の立場に立つ医療人を育成する教育もされ始めたが、依然として、歯科医師は他の医療従事者との関わりの中での歯科医師として仕事をするのだという教育はされていない。このような事実から、歯科医学教育における学生支援やキャリア教育は、まだまだ未発達分野といえる。

平成18年度に実施した合宿研修の成果を踏まえ、平成19年度の企画には意識的に、医療系異業種の学生や教員との合同合宿を試みた。同じ医療系のキャンパスにしながら、就職して医療業務に従事するまでは全く交流が無いことはチームワークの醸成にとってせっかくのチャンスを活かさないばかりか、異業種への相互理解にとって不利であることは明らかである。学生教育の中に相互理解を育む教育プログラムを組むことの意味は、本合宿研修のアンケート調査結果の分析で紹介されているのみならず、参加者が皆肌で直接感じる事ができた。今後は医療系他部局とともに、横断的に合同で学習する機会を用意することもキャリア形成

支援教育の観点から有効な教育方法といえる。また、全学的にも大学教育の中で部局をまたがって学習する機会の創出は、教育の柔軟性やダイナミズムを生み出す原動力になるのではないかと考えられる。いずれにしても「体験的学習」の大学教育課程への組み込みの検討は一考の価値があると考えられる。

このたび、歯学部学生委員会で「夢企画」を開始する背景となった学生意識の「充実感のなさ、やる気のなさ、何となく不安」が合宿後解消され、彼らは有意義な学生生活を送り、歯学部での大学生活に満足感を得ているのかと言う点についての追跡調査が行われていないが、それ以降の大学行事における学生の参加状況を合宿を経験していない低学年生と比較すると、例えば、この2年間の「学部長と学生総代との懇談会(年2回開催)」等への準備状況や討論内容から推察すると、「積極性、当事者意識、他者への配慮」等において、合宿を経験する前の学年の学生の行動や態度とは明らかに違ってきており、人間的成長が見てとれる。このような学生意識の問題に関しては、今後さらに、追跡調査等を行い、多面的角度からの「夢企画」の成果を検討する必要もある。

5. 終わりに：(展望)

1) 教育における学生支援とキャリア教育のあり方
平成18年12月に公布された改正教育基本法において、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために、政府が教育振興基本計画を策定することになっている。その中の重点的に取り組むべき事項のうちの4大項目中の2つに「キャリア教育」というキーワードが入っている。1つは「人材育成に関する社会のニーズに応える」という項目中であり、もう一つは「規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を作る」という項目中である。すなわちキャリア教育ということが現在社会の中で重要視されていることを示している。大学生に対するキャリア教育には大学で学ぶ専門性によりさまざまな形態がある。授業そのものの中にキャリア支援を組み込む方法が最も効果的効率的であると考えられる。それを無駄なく行っているのが、専門学校での教育である。大学は、学生の自由な探求心や研究心も育てる機関であるから、そこでの教育内容に幅が存在する。しかし、時代の移り変わりに伴い、それぞれの職種に対するニーズが大きく変化してきて

いるため、今までの教育だけでは、そのニーズに対応できない。教育を行う側の我々は、教育基本法の基礎になっている社会的ニーズを常に理解し、学生へのキャリア教育を行う必要があるといえる。大学の歯学教育においても、組織的取り組みとして、新たなキャリア形成支援のための教育手法を開発しつつ、学習環境を整備して行く必要がある。従来の枠組みには無かった合宿研修を授業として活用することは一つの方法論として提案できるであろう。

2) 学生支援のあり方について

学生への支援は、個々の学生に対して行う方法や集団に対して行う方法とがある。また、目的に対して直接的な支援と、今回のような学生に「体験」をさせることにより、「気づき」を与える間接的な支援がある。一般的には、直接的な講義や実習が効率的かつ具体的であるが、インパクトのある間接的な学生支援も活用する意義があるであろう。それを企画、準備するのは、日常の支援より煩雑ではあるが、最初の目的以上のものを生み出す可能性がある。

学生支援の理想は、支援される側が、多くのものを得ると同時に支援する側にも新しい次への課題を生むものであれば教育機関にとっても発展性があるものと考えられる。

謝辞

正課外授業としての4年次合宿研修のプログラムは、平成18年度、19年度学長裁量経費の支援を受けた。また、19年度の合宿研修を実施するにあたっては、医学部中屋豊教授、薬学部楠見武徳教授、医療教育開発センター寺嶋吉保准教授の積極的かつ献身的なご協力を頂いた。歯学部を代表し、以上のご支援に対して深謝を申し上げます。

参考文献

1) MBA 人材マネジメント

編者グロービス・マネジメント・インスティテュート、ダイヤモンド社

2007年7月11日発行

2) ビジネス・リーダーへのキャリアを考える技術・

つくる技術

グロービス・マネジメント・インスティテュート著、東洋経済新報社

2001年5月31日発行

- 3) キャンパスライフ第22回学生生活実態調査報告書、徳島大学、平成17年3月
- 4) 平成18年度歯学部4年次合宿研修報告書、徳島大学歯学部、平成19年3月
- 5) 平成19年度歯学部4年次合宿研修報告書、徳島大学歯学部、平成20年3月発行予定